

氏名（国籍）	バリガ モンロイ ホルヘ アレクサンデル BARRIGA MONROY JORGE ALEXANDER（コロンビア）
学位の種類	博士（芸術）
学位記番号	甲博第5号
学位授与年月日	平成26年3月20日
学位授与の条件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	コロンビアの空想的具象絵画の創造における絵画シーン（美学テキスト） —ボテロとマンスールの絵画作品の分析をベースとして— Pictorial Scene (Esthetic Text) in Colombian Fantastic-Figurative Painting Creation. —Based on the Analysis of the Paintings of Botero and Manzur.—
論文審査委員	主査 本学教授 岡本 幸久 副査 本学教授 大沼 映夫 副査 本学教授 島野 安雄 副査 本学准教授 田中 久美子 副査 女子美術大学教授 上葛 明弘

[論文内容の要旨]

美学テキストにおける空想的具象絵画の創造は、絵画や、その描き方を実践する芸術専攻の学生にとって、基礎的で概念的な要素を確立する研究である。その目的は、創造の過程や作品制作をより本格的な方法で構築することである。

コロンビアの画家、フェルナンド・ボテロとダヴィド・マンスールの作品により提示される美的表徴や象徴的—美的要素により、造形芸術における空想的具象の叙述の基礎的原理が決められる。その基礎的原理とは、絵画シーンやイメージの創造を確立する独創的提案のことである。この手法により、芸術的感性の深化、美的感性、創造性が刺激されるのである。そして、油画に関する新たな調査手法を切り開くものである。

論文構成

1. 論文のイントロダクション

- 1.1 研究の必要性
- 1.2 目的
- 1.3 課題
- 1.4 論文と仮説
- 1.5 理論的枠組み
- 1.6 方法論

2. フェルナンド・ボテロとダヴィド・マンスールの芸術作品の歴史と展望的分析

—新しいコロンビアの美学発明—空想的具象絵画の一般的見解

- 2.1 空想的芸術の誕生—20世紀のイベロアメリカ
- 2.2 コロンビアの象徴学と具象絵画—起源と歴史
- 2.3 2.1-2 のまとめ
- 2.4 20世紀の造形絵画における美学テキストと表徴的表示法
- 2.5 2.4 のまとめ
- 2.6 巨匠ボテロについて
フェルナンド・ボテロ作品の美学テキスト概要
- 2.7 概念的な範囲
- 2.8 巨匠フェルナンド・ボテロ作品の具体的分析
- 2.9 グラフィックな範囲—添付資料を参照のこと
- 2.10 巨匠マンスールについて
ダヴィド・マンスール作品における美学テキスト概説
- 2.11 概念的な範囲
- 2.12 巨匠マンスールの作品の具体的分析
- 2.13 まとめ

3. 絵画的シーンにおける詩学と寓話（美的象徴的アプローチ）

プレゼンテーション：空想的具象シーン創造のコミュニケーションの過程

- 3.1 空想的具象の叙述
- 3.2 空想的具象の定義

- 3.3 空想的具象の構築
- 3.4 潜在的な意味付け（主題設定）
- 3.5 空想的具象の視覚記号の発明と創造（新たな絵画的言語）
- 3.6 まとめ

4. 美学テキストの作成、空想的具象シーンの創造（油画）

- 4.1 美的表徴から造形的要素への翻訳

5. 結論

新しい空想の設計ーコロンビアにおける 21 世紀の油画界の展望

6. 用語解説

参考文献

Pictorial Scene (Esthetic Text) in Colombian Fantastic-Figurative Painting Creation.

—Based on the Analysis of the Paintings of Botero and Manzur.—

Esthetic text in fantastic-figurative painting creation is a research that set up basic conceptual elements (required by the art and painting student) in painting and drawing practice, in order to structure creative process and art work production in a deep way.

Supported on esthetic sign and symbolic-esthetic elements present at masters Fernando Botero and David Manzur's work; it determines basic principles of fantastic-figuration narrative establishing a plastic arts original proposal in image creation or pictorial scene. In this way, artistic taste development, esthetic sense, and creative spirit growing are stimulated. It also makes possible the opening of a new research field and line in relationship to oil painting.

Key words: esthetic text, fantastic-figurative painting, conceptual elements, creative process, artistic production, esthetic sign, symbolic-esthetic elements, narrative, plastic proposal, image creation or pictorial scene, oil painting.

[審査結果の要旨]

「コロンビアの空想的具象絵画の創造における絵画的シーン (美学テキスト)」というタイトルにあるように、コロンビアの芸術、特に絵画、文化を理解しておかなければ論文主旨は理解し難い。

又、申請者は美術教育において学生、後輩に対し絵画制作に必要な手立てとなる参考書として「美学テキスト」の重要性を確認し論文を執筆している。本課程2年次において論文の8割近くは書き終えていたようだが、その時点では体裁(形式)が整っておらず、前文に始まり、章、段、改行、余白、レイアウト、ページ表示と細かく指導がおこなわれた。本来申請者の研究基軸となる絵画(油画)作品制作は参照(サンプル)としての意味合いが強く、作品そのものの質、密度は少しばかり努力の余地を残している。

論文は大きく4章から成る。第1章はイントロダクションと論文概要。第2章は前半部コロンビアにおける具象絵画の歴史と社会との関係を抽象絵画と比較させながら述べ、次に主題といえる二人の対象作家「ボテロ」と「マンスール」の作品から20点ずつ合計40作品について1点毎分析がなされている。空想的具象作品の詩的表現や物語性から問題提起がなされ、そこから8項目の分析方法を見つけ出している。先ず、絵を構成している色彩要素「12色環位置」「色相」「明度」「彩度」の4項目、残りは「白黒に置換した比率」「幾何形体に置換した要素」「視野の動き」「構成要素とそのムーブマン」の4項目である。前半の色彩に関する4項目は絵画の分析方法として常套手段ともいえ、さほどオリジナリティーは感じられないが、後半の4項目は絵画的に展開され、興味深く評価に値する。特に「幾何形体に置換した要素」「構成要素とそのムーブマン」の2項目に関する分析図(画)は単純明快かつ色彩豊かでデザインセンスに溢れ、それぞれが1枚の抽象絵画に通じる存在感がある。これらの分析図(画)を構成している要素は「線」「矢印」「円形」「三角形」「矩形」と極めてプリミティブな表現で対象作品の上に半透明なレイヤーとして描かれている。このようにして名画を構成する要素を浮かび上がらせた結果、名画故に構成要素も優れている事を知らされるに至った。これらそのものを作品制作とした方が博士課程の内容にふさわしいという意見もあった程だ。

第3章はいかなるテーマの作品を生み出すべきかという基準についての記述である。空想的具象絵画の「説明」「定義」「構築」「主題設定」「新たな表現」から成り立っている。

第4章は2、3章の内容を基に油画作品制作の実践について、自らの作品プランニングから初期エスキース、本作品制作、その後の修正と変更点を必要性和共に記述してある。論文は全て申請者の母国語で草案し、英語文として提出された。論文指導は英語に精通した教員が担当した。論文概要は日本語文となり、論文発表会は数多くのチャート図を用い日本語でおこなわれ理解し易かった。

また研究作品の点数も多く展示され、表現の多様性を確認することができた。

合否にあたって、条件である論文、作品の発表、受賞、それに伴う社会活動、あるいはメディアに取り

上げられたか等を細かく勘案し判定した。論文の重要性だが、実技分野であろうと論文の提出は必須であり一定の水準以上の内容が必要となる。

ホルヘ君の審査にあたっては論文のウェイトが大きく、量、質的にも後期博士課程の水準を満たしていると判断した。逆に在籍専攻における作品制作の割合は小さかったといえる。その結果、論文は「美学テキスト」という参考書としての意図が明確である事、申請者は今後も母国の美術文化に寄与できる事、また社会活動において後輩の指導に情熱を持っている事を評価し合格とした。